

<p>観点</p>	<p>②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育</p>
<p>項目</p>	<p>内 容</p>
<p>園の現状や取組、課題</p>	<p>コロナ禍で、異年齢の活動が十分に組み合わせていない。子どもたちの成長発達を見ると、自分の思いを主張しすぎる子どもや、自分の思いをスムーズに伝えられない子どもなど様々な子どもがいるため、異年齢活動も重要な取組の一つと考える。感染状況の落ち着いている時期に取り組む予定としている。</p>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異年齢交流の中で、他者と関わる力や人の役に立つ喜び、認められる安心感を味わう。 ○ 異年齢の関わりの中で、一人ひとりが安心感を持って園生活を送る。 ○ 「自分が好き」という思いを十分に育みながら、自分とは違う他者の存在を知り、様々な関わりを大切にする。
<p>目標達成に向けた具体的な取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関わりを深め、刺激し合える環境づくりをするために、3・4・5歳児クラスを縦割りチームに分け、一緒に遊んだり生活したりする機会を設ける。 ○ 活動を通して、少しずつ互いを知り、関心を持つことで、年上児の真似や競って遊ぶ姿が年下児に見られたり、相手の気持ちに寄り添う姿勢が年上児に見られたりするようはたらきかける。
<p>成果</p>	<p>子どもたちが安心して園生活を送ることができるよう、各クラスで保育者や友達との関わりを深め、一人ひとりが大切な存在だと思えるように日々過ごしている。異年齢交流では、相手の気持ちを知り、他者と関わる力を育むため、運動会で、ロープの端と端を年長児が持ち、年少児二人が持つフラフープを通す競技に取り組んだ。初めの頃は、互いの感覚や相手の気持ちが分からずうまくいかなかったが、年少児は年長児がくぐりやすいように、「おねえちゃん、通って」と声をかけ、年長児は年少児の背の高さに合わせて体を縮めるなど、相手のことを思いながら関わる事ができた。</p> <p>その他に、年長児が芋掘りで学んだことを、年中児に分かりやすく伝えた場面では、年中児は「すみれさん、すごいね」と憧れを抱いていた。園庭の畑に出ると、芋を掘るのは、年中児だという意識が年長児にあり、手を出し過ぎないように教え、見守る姿があった。コツを掴んだ年中児は自分の手でたくさんの芋を掘ることができ、達成感を味わっていた。</p> <p>誕生日会や縦割りチームでの活動では、年上児が年下児のことを思い、「楽しめているかな？」と気持ちを考えたり、遊びのルールを丁寧に教えたりする姿が見られた。異年齢交流を行うことで、改めて見えてくる子どもたちの姿を保育者間で共有し、保護者の方々にも伝え、成長を喜び合うことが、私たちの役割だと感じた。</p>
<p>評価</p>	<p>異年齢の交流を大切にし、心の成長を意識した様々な取組みがなされている。年少児にとっては、貴重なロールモデルになり、年長児にとっては、年下のものに気遣ったり、思いやったりする心の成長につながる場面が多く見られた。また、子どもたちの成長や発達に目を向け、子ども理解を大切にしてい保育に取り組もうとする姿勢を今後も大切にしていきたい。</p>